

【氷川町】 校務DX計画

1 趣旨

氷川では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から ICT 環境の整備を進めてきた。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。

これらの課題を解決するため、本町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとする。

2 氷川町の現状

令和5年3月文部科学省で、GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議の提言（GIGA スクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高速化を目指して～）をとりまとめ、次世代の校務DXの方向性が示された。ここには、現在の校務情報化の課題、今後数年にかけて次世代の校務支援システムの整備やクラウド活用を前提としたGIGA スクール環境の積極的な活用といった次世代の校務DXの方向性、今後取り組むべき施策が述べられている。

本町においては、平成29年に熊本県校務支援システムを導入し、また1人1台端末が実現した令和2年には、授業支援ソフト等を導入して、授業の効率化、能率化を推進している。さらに、令和4年には統合型校務支援システムと学校用グループウェアを導入して、不必要な手入力作業の一掃等の業務効率化を図り、教職員の働き方改革を推進してきた。

3 本町の課題とその課題に向けた取組について

① 教職員と保護者間のデジタル化

特に児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡については、始業前に電話が集中してかかり、教職員の大きな負担となっている。その負担を軽減するため、令和7年1月に「クラウド型教育プラットフォーム」を全学校に導入し、そのプラットフォームの「保護者連絡」機能により、保護者のスマホ等からの欠席連絡を受け付け、集計・エクスポートができるようにした。また、保護者への連絡や通知・通信等の配付も可能にした。各校準備ができ次第、順次実施の予定である。

② 教職員と児童生徒間のデジタル化

各学校、調査・アンケート等については、クラウドサービスを用いて実施・集計するようになってきている。クラウドサービスを活用して授業中の小テスト等にCBT（※1）を取り入れている学校は現在1校のみである。今後CBT（※1）の活用についても啓発していく。

さらに、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」において実施が求められている「心の健康観察」は、「クラウド型教育プラットフォーム」の機能を活用して、令和7年度から全学校で実施の予定である。

③ 学校内の連絡のデジタル化

学校用グループウェアを活用して、全学校が学校内の連絡やアンケート等のデジタル化・ペーパーレス化を実現している。

職員会議・校内研修・授業研究会について、ハイブリッド（対面・オンライン）で実施しているのは1校のみで、あとは参集型で実施している。今後、町のICT活用研修会等で啓発を図っていきたい。

④ その他

教育委員会への文書提出については、原則として鑑文不要としている。また、鑑文を必要とする場合も、押印不要としている。

FAXの使用については、訃報連絡を除いてほぼなくなった。特に土・日の、FAXによる訃報連絡は周知が困難でもあるため、今後はデジタル化の方法についても検討していく。

さらに、ネットワークの統合化、校務支援システムと周辺システムのクラウド化等に向け、次世代の校務支援システムについて、令和8年度までに導入をする方向で検討していく。

【注 釈】

※1 「C B T」とは、「C o m p u t e r B a s e d T e s t i n g（コンピューター ベースド テスティング）」の略称で、コンピューターを使用した試験方式のこと。コンピューターのディスプレイに問題が表示され、マウスやキーボード等を使って選択肢を選んだり、答えを入力したりして解答を行う。